



平日昼間のアプリコ・クラシックシリーズ

# 本と音楽の素敵な出逢い vol.2

## 羊と鋼の森

人気作家と音楽家が繰り広げる、  
新感覚のクロストーク&コンサート♪

Natsu Miyashita



©堀田芳香

Miyuji Kaneko



©Seichi Saito

作家  
宮下奈都

ピアノ  
金子三勇士

ピアノ調律師  
大橋宏文

構成・ナビゲーター  
浦久俊彦

# 2023.11/1(水)

13:00 開演 12:15 開場

## 大田区民ホール・アプリコ 大ホール

JR・東急線「蒲田駅」東口から徒歩3分 京急線「京急蒲田駅」西口から徒歩7分

### 全席指定 3,000円(税込)【好評発売中！】

※未就学児の入場はご遠慮ください。 ※車椅子席(4席)をご希望のお客様はお電話か窓口でお申し込みください。



©新津保建秀

Toshihiko Urahisa

<チケット購入方法>

◆ オンラインチケット[24時間対応]

<https://www.ota-bunka.or.jp/>



◆ 電話予約・窓口販売[10:00-19:00]

大田区民ホール・アプリコ [TEL:03-5744-1600](tel:03-5744-1600)

大田文化の森 [TEL:03-3772-0700](tel:03-3772-0700)



ota\_bunka



otabunkaart



大田区文化振興協会



大田区文化振興協会チャンネル

主催:



公益財団法人 大田区文化振興協会 企画・制作:浦久俊彦事務所

大田区民ホール・アプリコ

〒144-0052 東京都大田区蒲田5-37-3

[TEL:03-5744-1600](tel:03-5744-1600) FAX:03-5744-1599

「森のような」 (宮下奈都先生メッセージ)

どうしてこんなにピアノの音が好きなんだろうと思っていました。  
曲によって、弾く人によっても、音色がすっかり変わるのも不思議でした。  
あるとき、ピアノの中に羊がいることを知り、そうか、ピアノは森だったのか、と思いました。  
人によって森の歩き方はさまざまです。木が好き人も、草を愛でる人もいます。  
陽が差し、鳥が鳴き、風がそよぎ、泉が湧く、深い森に分け入っていくようなピアノの音が好きです。



宮下奈都

## --- Program ---

ピアノ調律に魅せられた青年の心の成長と葛藤を描く、2016年本屋大賞受賞作『羊と鋼の森』。  
作者・宮下奈都の作品に込めた特別な想いに触れる貴重なトークや、  
ピアニスト金子三勇士の情感に満ちた演奏をお届けします。

♪ショパン:ノクターン嬰ハ短調「レント・コン・グラン・エスプレッシオーネ」  
♪ショパン:ワルツ第6番変二長調op.64-1「小犬のワルツ」  
♪ショパン:即興曲第4番嬰ハ短調op.66(幻想即興曲)  
♪ベートーヴェン:ピアノ・ソナタ第14番嬰ハ短調op.27-2「月光」  
♪リスト:巡礼の年第1番「スイス」より「泉のほとり」  
♪バルトーク:3つのチーク県の民謡Sz.35/BB 45b  
♪リスト:パガニーニによる大練習曲第3番嬰ト短調「ラ・カンパネラ」 他

### 金子三勇士さんメッセージ

「今回は、作家さんが選んだとおきのピアノ作品や、私がピアニストとして作家さんに贈る、特別な作品を取り上げるコンサートとなっています。会場で見なさまにお会いできるのを楽しみにしております！」

(2023年3月16日インタビューより)

作家 宮下奈都 Natsu Miyashita



©堀田芳香

1967年福井県生まれ。上智大学文学部哲学科卒。  
2004年初めて書いた小説「静かな雨」で第98回文壇界新人賞佳作に入選、デビュー。2007年初の単行本『スコレNo.4』が話題を呼び、ロングセラーに。  
2015年に刊行された『羊と鋼の森』が翌年、TBS系「王様のランチ」ブックアワード2015大賞受賞、「2016年本屋大賞」第1位、「キノベス!2016」第1位で、史上初の三冠を受賞、ベストセラーになる。  
登場人物の日常の風景や感情をみずみずしい文章で丁寧によくあげる作風で人気を得ている。著書に、『よるこびの歌』『太陽の Pasta、豆のスープ』『メロディ・フェア』『窓の向こうのガーシュウィン』『終わらない歌』など多数ある。近著は『ワンさぶ子の怠惰な冒険』。

ピアノ 金子三勇士 Miyuji Kaneko



©Seichi Saito

1989年、日本人の父とハンガリー人の母のもとに生まれる。6歳で単身ハンガリーに渡りバルトーク音楽小学校に入学。2001年、11歳飛び級でハンガリー国立リスト音楽院大学(特別才能育成コース)に入学し、2006年に全課程取得とともに帰国、東京音楽大学付属高等学校に編入。同大学卒業、同大学院修了。2008年バルトーク国際ピアノコンクール他、数々のコンクールで優勝。第22回出光音楽賞他を受賞。NHK-FM「リサイタル・パッション」にレギュラー出演。2021年は日本デビュー10周年を迎えた。それを記念して2022年3月にはドイツ・グラモフォンより新譜CD「フロイデ」をリリースした。スタインウェイ・アーティスト。オフィシャルHP <http://miyuji.jp/>

ピアノ調律師 大橋宏文 Hirofumi Ohashi



1966年生まれ 魚座のO型。中学、高校とサッカー部。高校2年の時、父親の薦めでピアノ調律師を志す。ヤマハピアノテクニカルアカデミー5期生。  
1994年1月～7月 スタインウェイアンドサンズハンブルク工場研修。2009年6月スタインウェイアカデミー認定証取得。現在スタインウェイジャパン株式会社委託技術者として日々調律業務に当たる。好きな言葉は「慌てず急げ」。

構成・ナビゲーター 浦久俊彦 Toshihiko Urahisa



©新津保建秀

文筆家、文化芸術プロデューサー。一般財団法人欧州日本芸術財団代表理事、代官山未来音楽塾塾頭、愛知県教育委員会教育アドバイザー。2021年3月、サラマンカホール音楽監督として企画した『ぎふ未来音楽展2020』が、サントリー芸術財団第20回佐治敬三賞を受賞した。著書に『138億年の音楽史』(講談社)、『フランツ・リストはなぜ女たちを失神させたのか』『悪魔と呼ばれたヴァイオリニスト』『ベートーヴェンと日本人』(以上、新潮社)、『オーケストラに未来はあるか(指揮者・山田和樹との共著)』(アルテスパブリッシング)など。最新刊は『リベラルアーツ～「遊び」を極めて賢者になる』(集英社インターナショナル)。公式ホームページ: <http://www.urahisa.com>

### 本と音楽の素敵な出会いvol.1 ご来場者アンケートより

「『本と音楽との素敵な出会い』という題名そのままの素敵なコンサートでした。小説家と音楽家との対談も初めてでしたが、とても興味深かったです。ホールもとても音響良く居心地も良かったです。」

「思っていた以上、予想に反して素晴らしかった。トークもおおざなりのものでなく、本音と作品に対する優しさ、誠実さに溢れていた。非常に良い企画でありました。」

「本の作者、音楽家、司会者のトークがとてもおもしろく、とても感銘の深いコンサートでした。」

「トークと音楽のバランス、全体構成にも工夫が見られ、終始楽しく拝聴しました。ホールの響きも良かったです。」